

みなまた環境まちづくり推進事業 観光と公共交通円卓会議

第4回観光分科会議事録

【開催日時】2012年1月30日（月）13：00～15：10

【開催場所】水俣市役所 秋葉会館 3階 会議室A B

【出席者】出席者名簿および座席表参照

司会：柿本主幹

【会議の内容】議事

1. あいさつ（厚地部長）
2. 観光資源の評価結果報告（担当：価値総研 芳賀）
3. 観光資源の評価結果について意見交換
4. エコパークの現状と取組み等について紹介（担当：ハートリンク水俣 前田氏）
5. 肥薩おれんじ鉄道の現状と取組み等について紹介（担当：価値総研 芳賀）
6. 観光資源の魅力度向上に向けた取組みについて提案（担当：価値総研 芳賀）
7. 全体に関する意見交換
8. 事務連絡

➤ 次回の分科会は2月21日に開催予定

【観光資源の評価結果に関する意見交換】

発言者	発言内容
松岡氏	湯の鶴温泉の件は、以前にも湯治客を対象にしたらよいとの意見があったので、湯の鶴の人に野菜などは商店街で売っているのかを聞いた。しかし、野菜などは街で買ってきていると言っていた。湯治客の獲得を目指すなら、湯治客が自炊できるように、少し安い野菜が買えるようにしてみてもどうか。そういうことも含めて、考えていかなければならないのではない。駐車場がないといった事も課題である。
坂本氏	棚卸しをしたものに対して評価をしているとの事だが、棚卸しは、誰がいつやったのか？ 絞り込んだ過程は非常に重要だが、その説明が無い。どういう項目で絞られたのか？ 少なくとも、これから先の水俣の観光は、こういうところにポイントをおいて、皆で作り上げていくといったことを示す事が必要である。今後は、絞ってきたこの結果に基づいて検討していくのか？「よしこれで行こう」というところに我々の意見はなく、我々は棚卸しまでしかやっていないという理解だ。私は中尾山公園に関係しており、水俣の観光と言えば、当然中尾山公園が入ってくるはずだが、これが全然入っていない。このような絞り込み方をして大丈夫なのだろうか？ 有識者委員の方にこのように評価してもらうのは、これで大事なことだが、我々市民委員にはそのような機会があるのだろうか？水俣市の観光に関する検討を進めていく際には、水俣市民の評価も中心に進めていって、有識者委員の評価を受ける流れが当然あってよいと思う。我々自身も、各観光資源の最近の状態をほとんど知らない。その辺どうなのだろうか？このまま進

	めていくと、片手落ちになるのではないだろうかと心配している。 市民が作り上げていくのが大前提のはずである。有識者委員に評価していただいたものだけで決まっていくのは良くない。 > 応答 柿本主幹 棚卸しは、棚卸しシートを皆さんに出して頂いて、そこで出た資源全ての評価を行ったが、今日の資料には評価結果で1つ星以上の資源のみを掲載している。 今回の評価の方法は、有識者委員に現地を視察頂いたり、視察できなかったものは資料などを渡して評価していただいた。 > 応答 厚地部長 今回出した資料には、前々回まで皆さまより棚卸しして頂いた資源について、専門委員から専門的な目を見て、良いと思われた資源を出している。今回、すべての資源を評価していただいて、視察したものは1つ星以上、見に行けなかった資源は二つ星以上を資料に掲載している。なので、この資料に載っていないものもある。ここに載っていないものは、今後やらないという訳ではなく、有識者委員からの意見や、皆さまの意見を踏まえながら、今後の観光振興に努めていきたいと考えている。なので、今回の評価結果だけが全てではないと認識している。中尾山については、評価していく過程でどういう訳か、欠落してしまった。大変申し訳ございません。これに関しては、後日評価していただく。 市民で作り上げていくという議論を十分理解しているが、観光はある程度外からの目も重要であるので、外から客観的に見ていただきながら、両方の面からやっていきたいと考えている。
福田氏	湯の児温泉の視察結果についてだが、「海岸からの景観はかなりネガティブである」という表現があるが、具体的にどうネガティブなのかを聞かせていただきたい。どの辺りの事を言っているのか？ > 応答 大西 ネガティブと言った事にあまり良い印象をもたれないと思うが、宿泊したお客さんがどの時間に外に出るか解らない。例えば、昼間の時間はいい面と、悪い面の両方がある。きれいにされているところもあれば、そうでないところもある。湯の児だけでなく湯の鶴もそうだが、営業していないので手が回らないところもあり、外観などはそのままとなっているところもあれば、綺麗にしているところもある。そういったところは隠しようがない。遊歩道を歩く時に、壁でもあれば綺麗な海だけを見て歩けるが、そうではないので、どうしても陸側も見えてしまう。地元の方はどのような歩き方をされているか解らないが、少なくとも私の目には、あまり元気な感じがしなかった。特に夜歩くと、ライトがついているかついていないかで、お客さんが入っていないことがばれてしまう。かつて、ほとんどの旅館が営業をしていた時は、誰もそんな心配をしていなかったと思うが、お客さんは泊まって、そこにあるものを見せられて良い印象、悪い印象を持つ。今の状況をみると、あれだけの旅館が立ち並んでいるが、さびしい印象を持つ。
福田氏	海岸からの景観とあるが、遊歩道を歩いた時の景観との理解で良いのか？

	> 応答 大西氏 海には勝手に入れないので、スリッパ履きなどで旅館から遊歩道をそぞろ歩いた時に見えてしまうものの事である。例えば天気がよくて、夕日が見えるのであれば夕日を見るが、そうでない時間帯はどうしても、見なくても良いところも見えてしまう。
福田氏	ネガティブなところを改善することが必要であるということか？改善の具体策は何か？ > 応答 大西氏 外に出て歩けるということは、そういう事をする人がいるという前提なので、改善できるなら、改善した方がよい。どこが主体となって改善をするのか、また予算がどのくらいあるによるが、予算が無いのであれば、建物に目がいかないように、ほかのものに目が行くようにする。他の地域で良くやられているのは、花のポットを置くなどして、目線を上でなく下に持っていくようにしている。これは根本的な解決にはならないが、歩いている人の気持ちを別のところに引き付ける効果はあり、安くできる。すべての旅館の外壁を修繕するのは、現実的でないので。
西川氏	愛林館に行ったことはあるのか、そこに2・3日泊まったことがあるのか？ 久木野地区はどのようなところか、という裏付けが必要である。よそから来た人が、よかったと思うようなイメージを植え付ける必要がある。 湯の児・湯の鶴・愛林館についても、コースが必要である。眺めがいいだけのコースか、勉強するコースなのか、湯の児だと入口の真ん中に古い屋敷があるが、そこは昔、岸壁だった。そこに温泉施設を作った歴史がある。また、何千年とさかのぼると鍛冶屋があったという歴史もある。面白いことがどんどん出てくる。湯の鶴にも、みんみん谷がある。子供が落ちてみんみん泣いたからみんみん谷と言うとか、昔は人減らしがあったとか、間引きがあったとか。そのような話をして、子供たちに人間が歩いてきた道を教える。昔を掘り起こしてコースが出来上がる。湯の児の山海館の下は、以前、病院があった。岸壁を埋め立てる前は風景がすごかった。コースとしておもしろい。 小学生・中学生に水俣をどのようにしたいか？という事を聞くと良い。そして、それを絵にしてそれを基に話し合っていけばいい。
岩下氏	市内の観光地を全て列挙して評価をしているが、ターゲットを絞ったうえで評価しないと、ちゃんとした評価にならないのではないかと思います。一般観光客向けなのかどうか。水俣は環境モデル都市になっていたり、水俣病の事もあるので、修学旅行や海外からの視察旅行も非常に多い。一般客向けであれば、受け入れ数が少なくても、土日空いていて、安定したサービスを提供できることが大切である、修学旅行は大人数で来るので、大人数向けでなければいけない。 例えば愛林館は常に空いているし、少人数でも受け入れをしているが、村丸ごと博物館はある程度まとまった人数での予約が必要である。湯の鶴は、完全に個人客向けであり、団体の受け入れができない。修学旅行で300人規模の団体が良く来るが、そうすると山海館ぐらいいしか収容してもらえない。ターゲットを絞った評価をしていただけると参考になる。
桑畑氏	徳富蘇峰蘆花生家だが、館の説明か、人の説明か、をはっきりした方が良いとの意見がある。私もそう思った。説明する中で、両方大事ということを説明する必要がある。今後、関係者と

	話をして資料を出していきたいと思う。 中尾山の意見があったが、個人的には恋路島がここに出てこなかったのが残念である。これまで恋路島の観光政策について何度も議論してきた。 矢筈岳は、九州一のいいところであると思う。 水俣湾だが、ここに書かれている最初のコメントは、まさに大事なことだと思う。公害のまちから環境のまちへ、ということを伝えていく水俣のシンボルだと思う。 水俣病の問題、あるいは歴史と観光の問題を割り切ったところで、みなさんが共通認識もっていくことが大事なのではないだろうか。
嶋田氏	デコポン（しらぬい）に対する評価・コメントとして、アピール力のあるメニュー開発が重要であるといった評価があるが、どこを見て評価したのだろうか？ＪＡあしきたでは数多くの商品を開発している。また、モンドセレクションの金賞を受賞した表品も数多くある（５つ）。そこはみられたのか？また、果実そのものの魅力が乏しいとあるが、どこが乏しいのだろうか？デコポンの格好が出っぱっているからかっこ悪いのか？今のところ、デコポンは水俣・芦北地域のみかん農家の主力商品であり、力を注いでいる。どのようなものを開発すればいいかを教えてほしい。 >応答 小高氏 デコポンが悪いのではない。あくまで観光で誘客をする上で、お客さんがデコポンを目指して来てくれるかが問題である。デコポンでモンドセレクションを取ったということは、すごく良い事だと思う。しかし観光客が、デコポンを目的にこの街に来ようということになるのか？あくまでデコポンは物産であって、観光の分野に至ってないのではないだろうか。もちろん観光素材としての魅力はあるが、観光に携わる物産品に広がっていない。デコポンだけをみて評価しているわけではない。デコポンと地域物産と観光を合わせて、デコポンによって誘客ができるのかというところが、今のところは無いという意味である。例えば、湯の児温泉の全旅館がデコポン風呂にして、それにつかると女性が若返る、ここのデコポンでないとその効果はないことをうたったり、デコポン神社を作ってみるなど、お客様の気を引くような事をするのが、観光誘客商品となる。私は、名古屋の人間なので水俣のデコポンを知らない。福岡でどれだけの人が知っているか。せっかくおいしいのであれば、それをもっと知ってもらう取組みをしたら良いのではないだろうか。
厚地氏	観光にはいろいろな形態がある。委員の評価は、色んなスタンスがあり、旅行会社からの視点や、地域づくりの視点が混じっている。個別の観光資源が悪いという意味で評価しているのではなく、より良くするためのコメントを頂いているので、誤解のないようにして頂きたい。
古木氏	愛林館がでたが、大好きなところの１つである。ＪＡＬパックの部長は、非常に面白い人で、仕掛け人である。この人に津奈木の海の上にある赤崎小学校を見せたら、面白いということで売れた。この人は「鉄っちゃん」であり、旧山野線を見せたら、ここに目をつけた。旧山野線の先にある大川のループ峠を歩き、帰りは久木野から水俣駅まで自転車で下るツアーを商品化した。ツアーは２月・３月で満杯となった。このような商品は良く売れる。５月の棚田のあか

	りのイベントと合わせて、是非やりたいと思っている。あのイベントはどこにも載っていないので、これから広げていきたい。観光客を呼び込むためには地元発信だけではだめ。国内ではテレビの力がすごく大きい。特に大河ドラマの効果が大きく、数百億の経済効果がある。最近では「篤姫」の効果が大きく、それは今でも続いている。次いでネットの力である。今の旅行者はネットで調べる。ネットで行きたいところを調べ、それがモチベーションになる。景観より食べ物の方がその効果が大きく、次いで宿泊施設である。この地域は宿泊客が少なく、観光客が素通りする状態である。エージェントが視察を行い、宿泊施設や食事のチェックなどをするが、残念なことに八代から川内までの間で、エージェントのお眼鏡にかなうものがほとんどない。我々は、本当は宿泊させたいと思っている。経済効果は、人数×単価×時間である。滞在時間の違いで、経済効果は変わってくる。仕掛け人は地元の方も大切だが、地元の人々の発信だけでは観光客は食いついてこない。モニターツアーによる評価が大切である。実は、今回の評価は1つのモニター評価である。仕掛け人は誰なのかということが非常に大切である。我々は着地型の観光商品を作って売っている。10-12月は、対前年同月比で売上がクリアした。これは開業以来初めてである。売り方が重要である。これには地元の情報が大切あり、私は水俣を自分の地元だと思っており、大好きである。惚れ込んだところの情報は徹底的に、旅行会社に情報を流している。 車内販売では、売れるものに差が出る。福田農園のものは、売れている。東京や大阪のデパートでも売れる。デコボンそのものは売れないが、加工品は売れる。車内販売は、大阪のおばちゃんに良く売れる。地元とのコラボレーションが大切になってきている。地元の人に加工食品を工夫して、提案していただきたい。観光商品に確実に結びつく。 また、マニアの人には、我々が捨てるようなものも売れる。観光客の中にはそういった人たちもいることを忘れてはいけない。少数の富裕層や、大衆向けの安いものを目指してくる人、色んな人がいるので、その視点を忘れてはいけない。 我々は、全国販売、最近では東アジア（中国、韓国、台湾など）への販売等に力を入れている。
大西氏	海岸線の景観のもう一つの改善策としてとして、ガイドをつけて歩かせる方法がある。時間を決めて、各旅館から参加者を集める。有料か無料かは、どちらでもよい。ガイドが、温泉地の栄枯盛衰を語りながら、5人～10人の観光客をつれて歩くと、逆に古いものが活かされる。よくあるのが、昔の写真を持って見せながら、現状と比べる取組みである。このような取り組みで、滞在時間が1時間延長することも期待できる。そこで、ガイドの終わりや途中でドリンクを一つサービスすると、それが呼び水となるかもしれない。ただ、話せる人（ガイド）どれだけ集められるか、システムチックにできるのかという課題もある。 湯治の話があったが、今の人は湯治そのものをやったことがなく、「プチ湯治」など湯治の真似ごとをやってみたいと思う人はいる。一月や一週間ではなく、2泊3日、3泊4日を想定しており、その間は自分で料理するよりも、旅館で毎日違う料理を提供してもらおう事を望むだろう。旅館側としては、月極めでなく日替わりの料理を求められるので、大変になるかもしれない。

	先ほど、古木氏がモニターツアーと言っていたが、まさにその通り、モニターツアーをした。その時に、ここの資料に掲載されている以外のものにもコメントしている。星をつけていないものもコメントをしている。捨てられるのは書いた本人もしのびないので、どこかでお披露目していただきたい。今取り組んでいることは、市役所や地元の人を含め、全体でスクラムを組んで取り組んでいく体制である。では、何をスターに祭り上げるのは何にするのか？また、場合によっては、一人で担いで行くものがあったても良い。個人、集落で守っていく・PRしていくものがあったてしかるべきである。そのようなものにも、我々のコメントを参考にさせていただければ良い。 岩下氏が、対象を分けるべきと言っていたが、まさにその通りであると思う。個人的には、水俣は団体客を相手にやっていくつもりなのか？という疑問がある。少数であってもマニアックな人たちはいる。水俣だから水俣病ですという人もいるし、広島だから原爆でしょという事もあるかもしれないが、そう思わない人もたくさんいる。水俣病以外の資源がいっぱいあると思う。デコポンもそうである。デコポンは大好きですし、特に子供はあの形が好きである。 個人でいくのか、団体でいくのか、あるいは大人か、子供かを分けて考えることが大切である。団体客を捨てるのはもったいないが、どちらかといえば個人客かなと思う。
--	---

【エコパークの現状と取組みについて ハートリンク水俣 前田氏より】

＜エコパークについて＞

- 都市公園として41ヘクタールの規模がある。もともとは水銀ヘドロの埋め立て地である。
- 環境再生のシンボルでもあり、もやい直しの場でもあり、重要ないろいろな意味のある場所だという認識がある。
- 環境センター、水俣病資料館、含めてエコパークという認識が市民にはある。

＜利用状況について＞

- 利用者それぞれ目的があって、公園に散歩、観光、道の駅、コンサート等のイベント多様な利用がされている。
- 平成21年度に道の駅として登録した。物産館、レストランの売り上げ伸びている。
- グラウンドゴルフは、ゴルフ場的なつくりをしており、全国的にも特色があるコースである。シルバー世代に人気があり、約1万5千人が来ている。ほとんどは地元の利用者だが、何百人かは湯の児・湯の鶴の旅館が企画したツアー利用者である。また、阿久根のレストランから来る利用者也居る。
- テニスコートは8面ある。8面そろえて空いているのが魅力である。都市の規模にしてはオーバースペックだが、逆にいえば、大会や合宿に利用しやすい。大学や、高校の合宿で利用されており、ソフトテニスで100人の宿泊を伴うような合宿が行われている。
- 潮騒の広場は、8万㎡(東京ドーム約1.5個分)ある。みなまた未来コンサートおよび、

それに伴って物産展を毎年開催している。サッカー場としても5面とれる。

- 竹林園は、公園の中で最初にできた施設（平成4年）である。世界の竹が160種植えられており、全国一である。ただ、竹は日本人には珍しくないため、わざわざ見に行くこともない。施設ができた当初（20年前）は、物珍しさから来てもらったが、現在は施設そのものが陳腐化していることや、情報発信も少ないことから、来園者は減少傾向である。大々的な改修を、熊本県と協力して、現在計画中である。
- 南フランスのアンジュールにも同じような施設あり、去年見に行ったが、バカンスということもあって人であふれていた。ヨーロッパに竹がない事もあると思うが、エコパークの竹林園も、売り込み方次第で魅力が増すという希望を持っている。

<利用者の推移>

- 施設が完成するにつれて利用者が増加した。平成19年度に全面開園となった。
- バラ園を少しずつ手入れしており、年間1万人ずつ増加している。ローズフェスタを市役所と一緒に開催しており、年間4・5万人の集客がある。集計を1か所で行っていないため、おそらく実際にはこれの1.3掛けくらいの集客がある。
- 竹林園は来園者が少しずつ減っている。
- 周辺施設の水俣病資料館は、修学旅行での来館者が多い。

<指定管理者の取組>

- 平成18年度から指定管理者を始め、少しずつバラ園の整備を行ってきた。現在では6500本750品種を有している。規模では、ハウステンボスのバラ園と同じくらい。品種と本数では全国的に10番目くらい。新しいという意味では、鹿屋のバラ園と同じくらいにできた。新しい品種をたくさん入れている点も特徴である。
- 指定管理者の自主事業として、自然観察会やガーデニング教室などを開催している。バラの講習会には約50人が参加している。
- 自主事業ではないが、各実行委員会が公園を利用して様々なイベントを開催している。
- アドプト制度で、チューリップのボランティア花壇を整備している。
- 薩摩街道ふれあいウォークを、熊本県・鹿児島県が主催し、肥薩おれんじ鉄道の協力を得て行っているが、年々参加者が増えており、大きなイベントとなりつつある。

<今後の取組み>

- 周りの方に如何に使ってもらえるか、如何に魅力があるものを作っていくのか、という事が指定管理者の使命だと認識している。
- グラウンドゴルフ場は、ゴルフ場のようにバンカーを作ったり、池を掘ったりして、観光施設として使ってもらえるようなコースを作っていきたいと考えている。2月中旬に7,000～8,000万円かけて改修を行う。
- 青を基調とした花の施設を作ろうと考えている。約1年かかる予定である。
- 花とスポーツ、みなさんに使いやすい場所を提供していきたいと思う。

※エコパークに関する有識者のコメント、および市民がお勧めする利用法について、価値総研 芳賀より補足

【全体に関する意見交換】

西川氏	新幹線で来た観光客が新水俣の駅に降りたときに、観光案内の人がいない。何時のバスに乗って、どこどこに行くといったコースの設定だけでもやってもらいたい。それさえも来年度から考えるのか？人吉の駅では、人力車が2台無料で運行している。駅に降りた時に、観光地まで乗せていく車があれば良いと思う。タクシーやバスだけでなく良いと思う。乗って行ったら面白かったということが、土産話として口コミで広がり、宣伝にもなる。湯の児に、昔は人力車があった。案内の人や、コースをちゃんと作ることが大切である。 道の駅「まつぼっくり」によそからきたお客さんをどこで遊ばせるのか。水俣の遊び方を教えたい。そうめん流しに行きたいと思った時に、何時のバスに乗ればいいのか、などが解ると良い。寒川は、岩の間から湧き出ている。命の水であり、水俣の宝である。
松永氏	グランドゴルフは、活字でグラウンドゴルフとしてほしい。
福田氏	水俣のバラ園を作った時に、バラのワインを作った。それを、鹿屋のバラ園にも置いている。九州の他のバラ園と連携ができていないのではないかなと思う。鹿屋のバラ園に、モンブランフジヤのバラのチョコレート持っていったら興味を持ってもらえた。水俣のバラ園で作った商品を他のバラ園にも持っていったら良いと思う。ハーブ園もすごくいいと思う。もっと市民を巻き込んでいけば。より愛着がわいていく。
岩下氏	バラ園で売られている加工商品の多くは、そのバラを使っていないが、水俣のバラ園のバラは、加工しても大丈夫なのか？農薬を使っているのか？ ＞応答 前田氏 農薬は使っている。バラ園のバラは見せるバラである。バラの商品を作るには、大量にバラが必要であり、品種も統一・限定する必要があることから、見せるバラとは別に商品を作るためのバラが必要である。一般的は、商品に適した品種を別に栽培するか、輸入に頼っている。水銀の埋め立て地で、環境を大切にするとやっている一方で、農薬を使っているのはどういう事だという意見もあるが、見せる事も大事なことはあるので、農薬を全然使わないわけにはいかない。農薬を減らしていく取組は行っている。
坂本氏	資料に書いてないが、水俣の場合は情報発信が非常に弱い。近くの山江村では、インターネットや、ケーブルテレビを活用して、全国に情報発信をしている。水俣でも情報発信の能力向上を考えていくべきである。情報発信を行っても、単体では限界がある。湯の児の桜だけでなく、中尾山、湯の鶴の桜といったように、観光資源を線にして発信していく必要がある。
前田氏	先ほど、坂本氏よりコスモス園がきれいだという話があった。確かに、綺麗だし、ロケーションもいいと思う。だが、日本に誇れるかと言われればそうでもない。バラ園もそう。日本中から、東京から人が来るのかと聞かれると、そうでもない。観光資源として、量的な資源と質的な資源があると思うが、量的にどうだという問題ではない。どう観光資源を売っていくか、

	情報を発信していくかが問題である。ヨーロッパでは、どんな小さな村でも入り口となるロータリーに、きれいに花が咲いていた。観光客を呼び込むことを目的とした取組みではなく、そこに住んでいる人たちの誇りであった。コスモス園や、バラ園などが地域の人たちの、自慢できるものになっていくことによって、親せきや知り合いに広まっていく。そのように少しずつ広がっていくことで、商売としての観光でなく、本当に行きたくなる場所となることが、これからの観光だと思う。私たちがバラ園を作ったのは、福岡、東京から観光客を呼ぶためではない。地元の人がたくさん来てくれる、喜んでくれる、地元の人が大事にしてくれるバラ園となれることがうれしい。
大西氏	エコパークは、かなり広いエリアである。いろんなものがあるが、それだけのものがあることがぱっと見ただけではわからない。エコパークの、どのようなものがあるかをきちんと発信する必要がある。その場所として、道の駅が一番いいと思う。スペースが空いているので、来た人が、来た時にどこで何をやっているかを掲示すると、車で来る近隣町村の方に利用が増える事も期待できる。たしかに、エコパークに似た施設が、九州内にいろいろある。それぞれのバラ園はそれぞれの地域で一番といっているが、全国的には知られていない。そこで、それぞれが手を結ぶ事もできる。九州観光推進機構で九州を束ねて発信しているので、そういったところの1つのテーマとして打ち込むことも1つのやり方としてあると思う。それとは別に、事業主体同士で手を組む、エールを送り合って成功している取組みもある。 鉄道ファンの方々は、本当に貪欲であり、趣味のためならどこまででもやってきて、いくらでもお金を使うところがある。ファンの方々は、発信を拾う能力があるので、それは活かしていく一方で、関心のない方が、行ってみたら実は楽しかった、と思うような取組みも考える必要がある。車内でイベントがある、あるいはモノが売られていた、といったことは、非常に印象に残ると思う。特に関西のおばさんは、良い思いをしたら帰って10人に言う。そのような宣伝効果も狙う。「おれんじ鉄道」ですので、鉄道ファンでない人にも解りやすくPRしていく方法もあるかなと思う。
古木氏	水俣市がピークだったころの観光客がどれくらいだったかの統計はあるのか？ 5年後にどのくらいにしたいのか？ということがあるのかないのか？が重要である。 ビジネスマンなので、5年後にはどれだけの観光客運ぶのか。何人を目標数値とするのか？を考える。 行政として目標数値を立ててほしい。エコパーク、日帰り、宿泊客それぞれのターゲットはどのくらいなのか？が分かれば、企業としてどこでお手伝いできるのか？が示せる。 肥薩おれんじ鉄道平成24年度から2両の観光列車を作る。駅に30分止まって、駅でマルシェを行う。駅の活用を強化していく。直営か、NPOにお願いするかは、今後検討していく。ただ、マルシェを行う際には、地元の方の協力が必要になる。イベントをすることで、2時間半の乗車時間で1人当たり2500円の単価が得られる。 エコパークでイベントを行っているとのことだが、イベントで集客できるのは鉄道フェスタである。過去に八代、出水、阿久根で行ってきた。鉄道のフェスタには国交省などの補助金がつ

	く。鉄道ファンがたくさん来る。フェスタと地元物産展も一緒に開催すると良い。イベントをどんどん提案してもらえれば、色々お手伝いできる。地域で何かイベントをやっていきたいと考えている。やりたいことが山ほどある。5か年計画がほぼ出来上がっているのので、発表する時が来たら皆さんにもご協力いただきたい。
小高氏	先ほど坂本氏がいった情報発信は、まさしくその通りだと思う。水俣の中で情報発信を外に向けて行っているのは、肥薩おれんじ鉄道だけだと思う。前田氏が言うように、地元が喜ぶことは、地域の観光が上手くいく上で大切なことだが、地元の満足は、あくまでも地元の満足だけである。当会を二分して、受け入れ環境整備事業（おもてなし事業）と誘客事業の2つに分けて議論する必要がある。誘客事業とは、お客様が住んでいる街に情報を、爆弾を落とす事である。お客様は、住んでいるその街で旅行の計画を立ててくる。ここに来てからだと、「昼はどうしようか」といった30分程度の物事しか決めない。だから、お客様の住んでいる街でエコパークなどを出さなければならない。現地に着いた時にエコパークを知っても、結局見ずに帰ってしまう。どんなに良いものも、お客様が知らないと舞台に上がってこない、一番のものも、一番のものとしてお客様の目に届かないと何にもならない。 岩下氏が、お客様にはいろんな種類があると言っていたが、旅行会社の業界では、春夏秋冬、規模人数、お客様の住んでいる街、旅行目的の4つに分け、組み合わせると、400通りのお客様の種類ができる。全ての観光資源はこの400通りのどこかには引っかかる。どのようなお客様に有効かであるかを分析しながら、おもてなし・受け入れ整備事業と、誘客事業を分けて進めていくと良いかと思う。外への発信・誘客事業は非常にお金がかかる。そのような事があって、観光資源が外に出ていくということを頭の隅に入れながら、観光誘客についても考えて頂きたい。